



アマリサイ人^{じん}

だい21しょう



アマリサイはたいへんずるがしこい男^{おとこ}で、ニーファイ人の^{じん}王^{おう}になりたがっていました。おおぜいの人^{ひと}がアマリサイにみかたしました。(アルマ2：1-2)



ただ^{ただ}正しいニーファイ人^{じん}はアマリサイ^{おう}に王^{おう}になってほしくありませんでした。アマリサイは神^{かみ}の教会^{きょうかい}をほろぼそうとしているのを知^しっていたからです。(アルマ2：3-4)



アマリサイ^{おう}を王^{おう}にするかどうかきめるために、人^{ひと}びとはあつまりました。ところが、たいはんの人^{ひと}がアマリサイにはんたいのとうひょうをしたので、アマリサイは王^{おう}になれませんでした。(アルマ2：5-7)



おこったアマリサイとみかたのものたちは、ニーファイ人^{じん}からはなれて、アマリサイを王^{おう}に立てました。そして、自分^{じぶん}たちをアマリサイ人^{じん}とよびました。アマリサイはみかたのものに、ニーファイ人とたたかえとめいじました。(アルマ2：8-11)



そこで^{ただ}正しいニーファイ人^{じん}は、弓^{ゆみ}、矢^や、つるぎなどでぶがそうしました。(アルマ2：12)



アマリサイ人がせめて来ました。しかし、アルマにひきいられたニーファイ人は、主の力をえて、多くのアマリサイ人をころしました。生きのこったアマリサイ人は、にげて行きました。(アルマ2：15-19)



アルマはつかいを出して、にげたアマリサイ人をおわせました。つかいはこうほうこくしました。「アマリサイ人はすでにレーマン人のたいぐんとれんごうして、セラヘムラ近くのニーファイ人をおそおうとしています。」(アルマ2：21, 24-25)



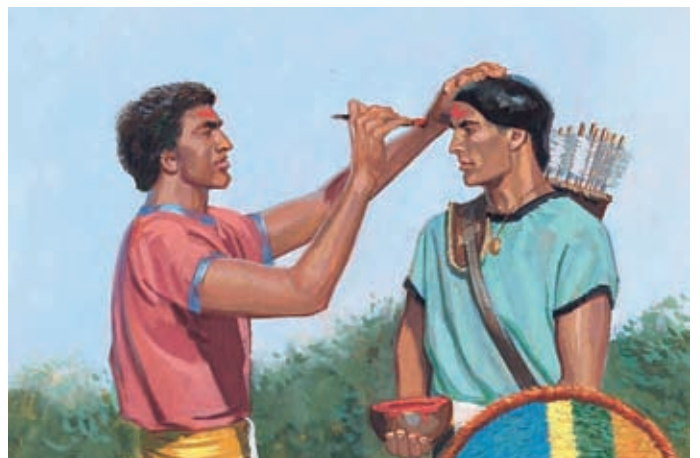
ニーファイ人はいのみりました。神により強められたニーファイ人は、多くのレーマン人とアマリサイ人をころしました。(アルマ2：28)



アルマとアマリサイは、ちよくせつたいけつしました。アルマは「わたしのいのちをたすけてください」といので、神から力をえて強くなり、アマリサイをころしました。(アルマ2：29-31)



ニーファイ人は、レーマン人とアマリサイ人をあれ野へついでぎしました。きずをおったものの多くはあれ野でしに、どうぶつのえじきになりました。(アルマ2：36-38)



アマリサイ人はレーマン人のように赤いしるしをぬったので、主が言われたとおりになりました。こうしてアマリサイ人は、ふくいんのめぐみからはなれたのです。(アルマ3：4, 14, 18-19)